

News Paper



被爆 81 周年原水爆禁止世界大会を福島・広島・長崎で開催しました。今大会では、次世代への継承の試みとして特別分科会「カタリバ」にとりくみました。特別分科会で若い世代を中心に参加者が対話する姿や、広島大会子どもひろばで 4 回目の参加となった小学生と大学生と一緒に活動する姿を見ながら、若い世代へ継承することはもちろん、現代を生きる私たちが、具体的に一歩ずつ核なき社会をめざして進んでいく責任を痛感しました。被爆者の平均年齢は 86 歳を超え、その体験を語れる被爆者の高齢化は避けられません。被爆体験を未来に託す被爆者の平和への願いとは反対に、日本政府は平和に逆行しているのではないのでしょうか。「台湾有事」をめぐる政治家の発言や防衛費の増加など、戦争がいつ起こってもおかしくない状況です。車のバックミラーのように、前・「未来」へ進むためには、後ろ・「過去」を見ながら、ハンドル・「今」をしっかり握り進まなければなりません。

もくじ	原水禁世界大会海外ゲストにきく……………2	日朝全国ネット第3回総会に結集を!……………7
	被爆 81 周年原水爆禁止世界大会報告……………4	(本の紹介)『進め!白鼻進』……………8
	横田基地の今 2025-2026……………6	戦争資料館から先の大戦を考える……………8

原水禁世界大会海外ゲストにきく

—初めて世界大会に参加して、どういった印象を持ちましたか？

もっとも印象的だったのは、さまざまな国から参加した、さまざまな運動に関わる人びとの連帯です。ともに過ごすことで強い同志的な感情を抱

き、核兵器を世界からなくすという目的を共有できました。地域の人々、被爆者、若者たち、そして活動家のみなさんの熱意から、大会に良心的な人々が集っていることを感じ、強く心を動かされました。大会の雰囲気も、核戦争が人間に何をもたらすか、そして私たちの運動をどう強めるかを模索する責任について、私の考えに影響を与えました。

—レーアさんには8月6日の国際シンポジウムで討論に加わっていただきました。アメリカの平和運動の立場から強調したことは何でしたか？

私は国際的な紛争を軍事的に解決しようとしたことで発生した失敗を検証する緊急の必要性を訴えました。とりわけ、アメリカ合衆国と他のいくつかの国々が、とくに朝鮮半島と東アジアにおいて、分断と対立を強めるような政策をやめるべきであることを強調しました。また、核不拡散における進歩と政治的な後退の関係についても発言しました。民主主義運動と国際的な協力関係が後退しつつあるとき、核戦争の危険性を抑制し、各国間の交渉を前進させるのは困難です。

最後に、私は核兵器保有国の「先制不使用宣言」に向けた機運を高める戦略的な意義について発言しました。核兵器を最初に使用しないと宣言することは、核戦争の恐怖にもとづく誤算や危機の拡大を低減し、核戦争に反対する国際的な規範を強め、核兵器廃絶に向けて記される重要な一歩となるはずです。将来予測が困難な不安定な国際情勢の下で、こうした段階を実現することが緊急に求められています。

—そのためにも、日米の軍事同盟に反対するとりくみが重要だと考えています。原水禁運動に参加している日本のみなさんへのメッセージをお願いします。

みなさんが核兵器廃絶の運動に粘り強く関わり続けていることに感謝しています。人類の未来は、他者の生命とくらしをより良いものにするために努力してい



参加者の熱意に心動かされた
セス・レーアさん
(米国、ピース・アクション)

る人びとの肩にかかっています。この不確実で混とんとした時代において、核の脅威、権威主義、強まる不平等が、私たちの平和に向けた歩みを圧倒しているかのように思えるかも知れません。世界で起きるさまざまな出来事は、必ずしも直線的に進むわけではありません。重要な歴史的変化は世界の不正を拒む人々によって実現されたことを思い出さなければなりません。

さまざまな影響や原因が複雑に絡み合う世界で、平和運動も想定通りには進みません。変化は常に、仲間づくり、教育、広範な人々への呼びかけ、啓蒙、沈黙や暴走に陥った政治指導者にももの申す意欲を通じてゆっくり実現されます。これらは、人々が理解を深め、新しい可能性につながります。

広島と長崎の記憶は、核兵器による絶滅の脅威にさらされる人々がいない世界の実現を呼びかけています。国際連帯を強め、核兵器廃絶によりすべての人類に平和な未来が保障される世界をめざしてともに歩みを進めましょう。

—日本には何度も来られているそうですが、世界大会についてはどのような印象を持ちましたか？

原水禁世界大会は初参加で、すべてが新鮮で印象深く感じられました。とくに核兵器禁止条約の批准を求める署名活動を行う全国の高校生たちが大会に集い、経験を共有し合いながらネットワークを広げる努力を進めていることに驚かされました。大会期間中も、市民から署名を集めながら「なぜこの署名が重要か」「なぜ核兵器が禁止されるべきか」について声を大にして訴える姿が印象的でした。

被爆者の高齢化で戦争の記憶が薄れ、軍備拡張を主張する好戦的な声が力を増している今の時代において、悲劇の記憶を若い世代へと伝え、平和への取り組みを継承する試みはとても大切です。韓国の市民社会も見習うべき点です。

—大会中の討論では、韓国における平和運動の課題についても言及していただきました。

ハノイ会談の決裂と南北関係の断絶以降、韓国の平和運動では、なぜ朝鮮半島の平和プロセスが失敗したのか検討を続けています。最近では、「朝鮮半島の非



韓日市民の連帯強化を
イ・ミヒョンさん
(韓国・参与連帯)

核化」という目標を維持しつつ、核能力を保有するに至った朝鮮とどのように平和的に共存するかについて討論を重ねています。軍事的緊張を緩和するためにも、朝鮮を対話の場へと促す具体的な方策について、市民社会側でも真剣な議論が必要です。

緊張が強まる東アジアで、韓国と日本が果たすべき役割と責任は重大です。軍事同盟に深く関与している両国の市民社会こそが立ち上がらなければなりません。とくに、朝鮮戦争を終結させ、東アジアの多国間協力秩序を構築することで、軍事同盟中心の対立関係を根本から変える試みが重要です。

一私たちがそのとりくみを強める上で、ヒントになることはあるでしょうか。

長期間にわたり、東アジアの国々の間で敵対的な関係が続いています。見方を変えれば、これほどの危機下でも戦争という最悪の事態を防ぐ底力が存在していると言えます。私たちには、こうした平和の力を育てることが切実に求められています。軍事力への依存ではなく、交流・協力や外交的解決を優先すること、そして当事者である住民の生命と安全を最優先にする声を上げることが、まさにそのとりくみです。韓日の平和運動が互いの経験に学び合い、連帯することで、草の根の取り組みを通じて政府を突き動かす圧力となるよう努力することが重要です。日本の市民社会が「非核三原則」を守り、核も戦争もない世界を築く道に、韓国の市民も固く連帯し、力を尽くします。

一広島大会で行われた国際シンポジウムにおいて、朝鮮半島の非核化に向けた課題をめぐって発言をいただきました。

朝鮮半島では南北間の対話や交流が実質的に閉ざされ、大規模な合同軍事演習が続き、南北いずれの軍事作戦計画にも先制攻撃の可能性が示されています。長年の経済制裁と軍事的圧力も非核化を実現していません。最新の世論調査は、約8割の韓国人の人々が自国の核武装を支持していると伝えています。

このことから、私はシンポジウムで、なぜ81年もの間、核兵器がふたたび使用されなかったのかを問いました。これに対し、「核抑止」「恐怖の均衡」が核兵器の使用を防いだといった回答する人が多いのかも知れません。しかし、恐怖は無謀な冒険や誤算をもたらします。私たちが心にとどめなければならないのは、被爆者によって伝えられた記憶です。被爆者の証言は、抽象的な核兵器のイメージではなく、原爆投下によっ

て家族のもとに帰ることがかなわなかった人々を具体的に思い起こさせます。

核兵器はただの装置ではなく、関係性を示すものでもあります。ある国が他の国を「敵」と定義し、その国の人々を人間以下の存在だとみなすことで存在しうるのは。しかし、原爆投下により、日本人も、朝鮮人も、ほかの国の人々も、みんな耐え難い苦しみを経験しました。人間的な相互関係の回復はそもそも国家にはできない、だからこそ原水禁のような運動が重要で。私たちは、核の先制不使用宣言、朝鮮半島における平和協定、そして北東アジアにおける非核兵器地帯の設定という課題を共有しています。そのうえで、今なお欠けているのは、「向こう側」にも私たちと同様に生きるに値する人々が暮らしているという確信だと訴えました。

一世界大会への参加も、そうした確信を強める機会になったでしょうか。

私たちの日程が、平和公園の韓国人犠牲者慰霊碑への献花から始まったことに強い感銘を受けました。韓国人被爆者とその子孫は今も被爆による影響の下で生活しています。世界大会の出発点は「国家」ではなく、「人類」の生存に置かれていました。この両方が、私の中で強く結びつきました。被爆の実相は何もしないままに伝わるわけではありません。年ごとに世界大会に集い、記憶し、伝えることに自らの時間をあてることを決意した多くの普通の人々によって伝えられるのだと思いました。

被爆者の記憶を、未来に向けてどう語り継ぐかの模索は、世代や国境を超えて私たちがともに果たすべき責任です。この夏に福島・広島・長崎に集ったみなさんに、そして各地で平和運動にとりくむ仲間たちに、世界大会で得られたことは決して小さいものではないと伝えたいと思います。日韓の市民がともに韓国人犠牲者の慰霊碑の前に立ち、アメリカの平和運動家が被爆者のそばに寄り添い、ポリネシアの友人が核実験によって彼らの島々にどのような被害がもたらされたのかを訴えたとき、政治指導者たちによるサミットが生み出せなかった何かが起きたのです。今年11月に行われる核兵器禁止条約の第1回再検討会議が、私たちの議論の次の機会です。韓国の市民がみなさんとともに歩めるよう準備を進めます。



被爆 81 周年原水爆禁止世界大会報告

大会実行委員会 事務局長 谷 雅志

被爆 81 周年原水爆禁止世界大会は 7 月 25 日に福島大会（550 人）としてスタートし、8 月 4 日から 6 日にかけて広島大会（2000 人）、8 月 7 日から 9 日にかけて長崎大会（950 人）と多くの参加を得て、地元実行委員会の多大なるご尽力により開催することができました。大会運営に関わってくださったすべてのみなさんに、大会実行委員会として心よりお礼を申し上げます。心配された台風の影響も少なく、夏の厳しい暑さも例年より少し落ち着いた天候の下での開催となりました。大会アピール、運営委員のみなさんに作成していただいた各分科会まとめについては、原水禁ホームページに掲載していますので、この報告と合わせてご覧いただければ幸いです。

東電福島原発事故の発生から 15 年を迎えました。多くの県民が避難を強いられる現状が続いているにもかかわらず、国は医療費・介護費の支援を段階的に打ち切っています。原発の再稼働・最大限の「活用」には、福島での原発事故はすでに終わったと印象づける必要があることから、避難している住民を切り捨てるかのような政策を進めています。国の姿勢は、「国策の犠牲者として最後の 1 人まで責任を持つ」という、事故直後の約束とは程遠い状況にあります。

福島大会では全体会として高校生の意見表明やおもいを共有したうえで、2 つの分科会を開催しました。一つは日本政府の原発推進政策の誤りを問い、もう一つは地元福島のとらえみやこれまでの歩みについて話を伺いました。地元でも「風評被害」という圧力により、原発事故について発言、アピールすることへの「冷たい目線」があるのも事実です。それでも間違いなく事故による被害を受け続けている人々は数多くいます。声を挙げにくくなりつつある社会全体の雰囲気屈することなく、「原発事故は決して終わっていない」ことを確認しながら、その被害に対する補償を継続的に求めていかなくてはなりません。広島・長崎の原爆投下から今日まで、十分ではないものの被爆者への支援を勝ち取ってきた歴史から私たちが学ぶべきは、原発事故から 15 年を経た今後の運動こそが重要であるということです。「資源の乏しい日本でのエネルギーの安定供給」などといった理由を述べようと、人の命を犠牲にして良いはずがありません。原発がひとたび事故を起こすと、住民の命・くらし・文化・歴史などあらゆるものが危機に瀕します。まずは原発稼働を止め、すでに生み出してしまった放射性廃棄物の保管について、多くの市民の意見に耳を傾けながら考えていく政策転換こそが必要です。福島大会で採択された福島アピールについて、7 月 29 日に東電福島復興本社に要請書とともに提出してきました。東京電力からはこれ

までより踏み込んだ回答はなかったものの、参加者のおもいを伝える一つの場面とすることができました。15 年という節目にあたって、福島大会のあり方については今後も、現地実行委員会と議論を深めたいと思います。



広島大会は、開会総会における高校生による詩の朗読、被爆ピアノの演奏で始まりました。言葉や音楽、あらゆる手段を用いて被爆の実相を伝えようという努力がこれまで数多くなされています。その重要性を確認する機会となりました。分科会については広島・長崎ともに、①世界の核状況、②国内の情勢、③原発に頼らない社会にむけて、④被爆者の残された課題、⑤世界のヒバクシャとの連帯、⑥原水禁運動の入口と、それぞれのテーマにそって講師のみなさんにお話しいただき、各会場で理解や議論を深めました。初めての大会参加が 9 割近くを占めた分科会もあります。職場や地域で、先輩方から広島・長崎へ送り出していただいている賜物だと受け止めています。この原水禁世界大会は「核も戦争もない 21 世紀に」という、平和を願う運動の入口になる大会であることを常に考えています。

現在の核をめぐる状況は、きわめて危機的であると言わざるを得ません。5 月に閉会した核不拡散条約（NPT）再検討会議では、成果文書を取りまとめることができませんでした。核保有国であるアメリカとロシア・中国の対立が深まり、イランやウクライナでの武力による現状変更を押し進めようとする姿勢に、国際社会全体が混迷度合いを増しています。国際法は関係ないと公然と発言する国のリーダーが、国家間の対立と分断を煽っています。時の政治権力者によって核兵器使用という誤った判断がなされないよう、私たち市民が声を挙げ続けることが重要です。11 月末から 12 月にかけて開催される核兵器禁止条約第 1 回再検討会議へと、核廃絶を願う私たちの声をつなげていきましょう。そのためにまずは日本が、核兵器廃絶を実現させる強い決意を示すうえでも、核兵器禁止条約に署名・批准することが必要です。この運動を強化していき

いと考えています。



長崎大会では80人を超える高校生が全国から集まりました。広島・長崎の両大会で開催した特別分科会と合わせて、「継承」の具体の一つとしたいと考えます。特別分科会においては大会前に2回、オンライン会議を開催し、青年層が企画から当日の運営まで担当することを通して、「参加する」ことから一歩先へ踏み込むことをテーマとしました。参加者が少人数で話し合う時間を多く持つことで、講演を聞くだけではなく自分が何を考えたか、どのようにしたいかを発信することを通して、「自分事」の平和について考える機会となることをめざしました。参加者や運営を担ったみなさんからのフィードバックを今後に生かしたいと思います。

原水禁大会の原点は被爆の実相にあります。長崎でいまだ被爆者と認められない「被爆体験者」について、分科会で具体的にこういった問題なのかについて学びました。一日も早い解決をはかるため、市民の声をさらに高めることと合わせ、政治的な解決を求めなくてはなりません。「被爆体験者」は被爆者です。行政の線引きである旧長崎市かどうかだけで、被爆者と「被爆体験者」の線引きをすることが合理的であるはずがありません。長年にわたり被爆者と認められないままに亡くなっていく方々が数多くいます。残された時間は少なく、喫緊の問題であることを訴え続けましょう。

今回はポリネシアからフランスの核実験による被害の問題にとりくむゲストをお招きしました。原水禁大会ではいち早く世界のヒバクシャに目を向け、連帯することで互いの問題を解決させようととりくんできました。ヒバクの問題は遺伝的影響として二世・三世へとつながっています。国境を越えた被害者となつたり、世代を超えた多くの被害者ともつたり、「核絶対否定」の信念を貫く運動を展開する必要があります。

高市政権は2026年末までに安保三文書の改訂を示唆しています。その中には「防衛費」のさらなる増額ばかりでなく、非核三原則の見直し、核の持ち込みについて議論する姿勢を示しています。国際情勢が不安定度合いを増しているからこそ、日本国憲法の理念にある「平和主義」はより一層重要であり続けます。私たちのくらしの充実と未来の平和を実現させるために、今必要なことは決して非核三原則の見直しではありません。むしろ世界では核兵器禁止条約が発効した後の社会を生きています。戦争被爆国である日本が、核兵器廃絶を求める姿勢を明確に示すことは、国際社会に

おいて重要であり、他の国の強い関心の一つでもあります。日本政府には、核兵器廃絶を実現させようと行動する国々の先頭に立つよう求めます。

被爆81周年原水禁世界大会に参加されたみなさんが、今後各地域や団体において積極的に原水爆禁止運動を推進してくださることを心から願います。自分と自分の身の回りの平和を実現させる先に、国際社会と未来を思い描き、おもしろい共にする多くの市民のつながりをもって、「核も戦争もない21世紀」を実現させましょう。「核と人類は共存できない」という理念の下、核兵器だけではなく、すべての核エネルギーに頼らない社会の実現をめざすことが、私たちの平和なくらしと未来を築くことにつながります。



大会運営にご協力いただいた多くの方々に感謝を申し上げ、大会実行委員会として今大会の総括をしつかり行つたうえで、被爆82周年の大会へとつなげたいと考えています。

原水禁ホームページに各大会日程の報告を掲載しています。そのなかで全体会や分科会の動画が視聴できますのでご活用ください。

【原水禁 HP】

【原水禁 YouTube】



(たに まさし)



1 横田基地の概要

横田基地は東京都多摩地区西北部に位置し、主に米空軍と航空自衛隊が共同使用している軍事基地である。

① **規模**…面積は 7.136km²（福生市、武蔵村山市、立川市、昭島市、羽村市、瑞穂町）で、東西約 2.9km、南北約 4.5km、周囲約 14km。

② **人口（利用者）**…米軍人・軍属：約 3,960 人、米軍人家族：約 3,910 人（2017 年 1 月現在）、日本人従業員：約 2,075 人（2020 年 3 月現在）、自衛官約 1,000 名（2020 年 3 月現在）

③ 使用部隊

米軍…管理部隊は米空軍第 374 空輸航空団。使用部隊は在日米軍司令部、第 5 空軍司令部、在日米宇宙軍司令部、第 374 空輸航空団＜運用群、整備群、使命支援群、医療群ほか＞、第 353 特殊作戦航空団、国連軍後方司令部など

航空自衛隊…航空総隊司令部、航空戦術教導団司令部、作戦情報隊、作戦システム運用隊、横田気象隊など

④ **滑走路**…1 本、長さ 3,350m（+オーバーラン 300m × 2）×幅 60m

⑤ **常駐機**…C-130J-30（14 機）＝4 発の戦術輸送機、C-12（3 機）＝双発の軽輸送・連絡機、CV-22B オスプレイ（6 機）＝特殊作戦用の垂直離着陸機、RQ-4B（3 機）＝高高度無人偵察機。26 年 8 月に配備予定

⑥ **飛来機**…米軍機＝C-5、C-17、KC-135、KC-46、MC-130、KC-130、P-8、F-35B、F/A-18、C-32、C-37、UH-60、MH-60 など＝大型輸送機、空中給油機、戦闘・攻撃機、海上哨戒機、特殊作戦機、汎用ヘリコプター、米政府高官用ジェット機など
KALITTA、ATIOMNI、ATLAS など、チャーター便の貨物輸送機・旅客機
自衛隊機＝C-2、U-4、C-130H、T-4、CH-47 など

⑦ 施設

軍事施設…滑走路、誘導路、司令部（在日米軍、第 5 空軍、第 374 空輸航空団、航空自衛隊・航空総隊）、管制塔、通信塔、レーダー、誘導灯、射撃訓練場、弾薬庫、格納庫、航空燃料貯蔵施設、共同統合運用調整所、兵員宿舎、将校宿舎 など

軍事施設以外…家族住宅、幼稚園、学校（小学校、中学校、高校、大学＝分校）、病院、消防署、教会、銀行、自動車車検場・修理工場、ガソリンスタンド、劇場、美容院、ショッピングモール、ごみ焼却場、野球場、フットボールグラウンド、体育館、プール、ゴルフ場、変電所、JR から航空機燃料搬入用引き込み線 など

2 世界情勢と横田基地の変化

世界情勢や米軍の仮想敵国の軍事力の変化に伴って在日米軍や横田基地の位置づけも変化している。それは、基地機能の変化や飛来機、訓練の態様に表れている。

3 横田基地でのパラシュート降下訓練

2025 年は相次いでパラシュート降下訓練に関する事故が起きた。11 月 18 日、突然兵士が基地から約 3 キロメートル離れた羽村市の民家屋根に降着。その 2 日後に基地司令官が羽村市に謝罪に訪れ「原因が解明できたので訓練を再開する」と言った数時間後、福生市の児童館に落ちたパラシュート部品を夜陰に紛れて無断侵入し回収（他の部品が後日発見されるまで事態を隠蔽）するなど、治外法権を笠に着てやりたい放題の米軍の姿が露わになった。関係自治体は抗議申し入れを行い、私たちも自治体に申し入れ、議会陳情をした。米軍は関係自治体の議員を招いてフィールドワークを実施することでお茶を濁した。

4 オスプレイ問題

2023 年の屋久島沖での横田基地所属オスプレイ墜落死亡事故以来、米軍監察当局が警告を発して運用停止を勧告したものの、その後も基地周辺上空での訓練は繰り返されている。

横田基地配備の CV-22 だけでなく、オスプレイはあまりに事故や故障が多く（日本における緊急着陸は、直近で 2025 年 7 回・2026 年 8 月までに 3 回）、私たちの居住地の上を無事に飛んでいること自体が不思議な飛行物体と言ってよい。

5 PFAS 問題

横田基地では、航空機火災の消火剤として使われる有機フッ素化合物 PFAS が 2015 年まで約 50 年間使われてきた。判明した基地内 PFAS 漏出事故は 2010～23 年に計 8 回（いずれも米軍は基地外への流出を認めていない）だった。24 年 8 月に起きた消火訓練場の貯水池から約 4 万 7 千リットルの汚染水が流出した事故で、米軍は初めてその可能性を認めた。ところが、同年 10 月に流出の事実を公表、12 月の国や自治体の立入り調査は場所を確認させる程度、25 年 5 月の立入り調査は汚染水処理後の検査許可程度。結局、どれだけの濃度の汚染水が基地外に流出したかは不明のままだ。

6 基地機能の強化～政府反対勢力への抑圧

横田基地の司令部機能の強化が進められている。25 年 3 月の陸海空自衛隊の統合司令機能再編に対応して、米軍横田も 26 年 3 月に平時の司令部と「戦時」の司令部を分離し、中将 2 人制の戦時体制になった。

高市内閣は、国家統制を強化する国家情報会議設置法を成立させ、武器輸出三原則を見直し、殺傷能力武器輸出解禁を閣議決定、国旗損壊罪新設、さらに大浦湾での船舶事故を口実に平和教育へ過剰介入するなど、重要土地規制法に続いて基地反対や公害反対の市民運動に対する抑圧を強化している。これらの流れは、私たちのオスプレイ反対行動への警察による規制強化として表れている。

日本と朝鮮を結ぶ全国ネットワーク（日朝全国ネット）

第3回総会＜長野開催＞に結集を！

堀川久司（日朝全国ネット事務局次長）

日朝全国ネットの結成

2002年9月、初の日朝首脳会談に臨んだ両国の首脳は「国交正常化を早期に実現させるためにあらゆる努力を傾注」「日朝間に存在する諸問題に誠意をもって取り組む」ことを柱とする日朝平壤宣言に署名しました。これにより日朝国交正常化への期待が大きく高まりましたが、拉致問題が過度に煽り立てられるなかで日本国内の朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）に対する世論は急速に厳しさを増し、国交正常化交渉は停滞しました。その結果、日本の植民地支配に関する責任という歴史的課題も後景に退いたように見えます。その後、2014年のストックホルム合意により関係改善が期待されましたが、現在もネット上には朝鮮への憎悪を煽る表現が少なくなく、在日朝鮮人に対する差別行為を助長する一因となっています。

日本の朝鮮植民地支配は1945年8月の敗戦によって終結しましたが、加害の歴史と向き合う課題は現在も残されたままです。日朝平壤宣言の精神を継承し、各地で活動する日朝友好促進団体が緩やかにつながりながら幅広い連携を目指すため、日本と朝鮮を結ぶ全国ネットワーク（日朝全国ネット）が結成されました。

2025年2月8日、都内で開催された結成総会は全国からかけつけた参加者や報道陣で埋め尽くされました。ステージには日朝全国ネットの呼びかけ人10人に加え、国会議員をはじめとする来賓が列席しました。朝鮮の朝日交流協会からは「平和で安定した世界において、近い隣国として仲睦まじく生きていきたいというのが、朝日両国人民に共通する志向であり願望」であるとして、「朝日友好の新たな1ページを刻んでいくことを期待しています」とのメッセージが寄せられました。

「日朝友好の歴史と課題～民衆の側から政治を動かす一日朝友好史を彩った人々～」と題した「朝鮮新報」の元論説委員・朴日粉さんの記念講演では、故・久野忠治衆議院議員や故・清水澄子参議院議員をはじめ、日本と朝鮮の交流を支えてきた人々の歩みが数多く紹介され、日朝友好の歴史を振り返る貴重な機会となりました。

続く総会では、「日本と朝鮮のあるべき将来を見据え、友好連帯の活動を全国で積極的に進めること」を目的とし、「①日朝国交正常化②在日朝鮮人の権利確立③東北アジアの平和と安定」を主たる取り組みとして進めていくことを参加者全員で確認しました。共同代表として中村元氣（福岡県日朝友好協会共同代表）・保坂正仁（日朝友好促進東京議員連絡会共同

代表）・藤本泰成（フォーラム平和・人権・環境顧問）の3人を、事務局長には谷雅志（フォーラム平和・人権・環境事務局長）を選出し、結成総会は盛会のうちに閉会しました。

第3回総会（長野）に結集を！

結成後の日朝全国ネットは、数か月に一度の事務局会議と年数回の運営委員会を軸に活動を進めています。運営委員会には賛同団体・個人が対面とZoomで参加し、各地の取り組みや活動状況について報告・意見交換を行いながら情報を共有しています。また、友誼団体との共催により、朝鮮戦争の終結や関東大震災時の朝鮮人虐殺の真相究明を求める集会、日朝平壤宣言の履行を求める集会を開催し、世論喚起に取り組んでいます。2025年9月には都内で第2回総会を開催し、この間の活動報告を行うとともに、全国各地で展開された日朝友好活動を共有し、情勢認識や当面する課題について協議しました。

第3回総会は10月10日、長野朝鮮初中級学校を会場に開催する予定です。当日は、「今日の朝鮮」をテーマにした朝鮮大学校教授・李柄輝氏の講演に加え、「日朝民間交流の重要性」について、日朝文化交流協会幹事で翻訳家の米津篤八氏による記念講演を予定しています。前日の9日には長野朝鮮初中級学校での授業見学や学校長のお話を通じた交流を行い、その後レセプションを開催する予定です。開催に向けて準備を進めてくださっている日朝長野県民会議の皆さんに心より感謝を申し上げます。第3回総会が全国の日朝友好運動のさらなる発展につながる場となるよう、一人でも多くの皆さんの参加を心よりお願いします。

2024年12月3日、韓国の尹錫悦大統領（当時）は「非常戒厳」を宣布し、その目的を「北の脅威」や「反国家勢力」から韓国を守り、自由な憲法秩序を守るためと説明しました。しかし、多くの市民が抗議行動を行い、国会も速やかに戒厳解除要求を議決しました。その後、この措置については、大統領自身の政治的立場を守ることが主な狙いだったとの批判が広く提起されています。「自由な憲法秩序を守る」という耳に心地よい言葉の裏で、「北の脅威」を強調し、自らに批判的な勢力を排除しようとしたとの見方もあります。日本でも、自らの政治的利益のために「北の脅威」を強調する言説が見られます。歴史を振り返れば、恐怖を煽る政治によって最終的に自由や権利を損なうのは市民であることが少なくありません。

東北アジアの平和実現のために、日朝全国ネットに結集しましょう！

〔本の紹介〕

『進め!白鼻進』

(増村十七著・小学館刊)

ときは1933年、漫画家の甘神白鼻進は、自らの漫画作品が「人の心も／やがて／世界を変える」などと高すぎる理想を抱きながら、出版社への持ち込みでは失敗続きという不遇を託っています。そんなときに出会った田川水泡の『のらくろ上等兵』の革新性に衝撃を受け、すべてまるパクリの『ぶちねこ四等水兵』で大ヒットをめざします。

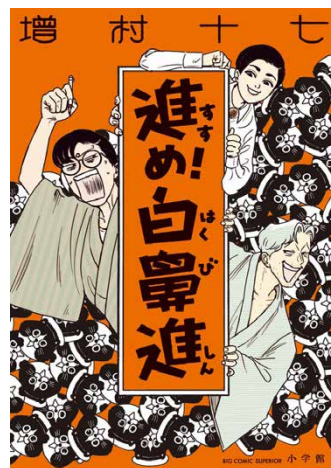
幼馴染で貧乏出版社の宇宙亀吉と組み、炎上上等の宣伝戦略を実行。テーマソング、広告トラック、メディアミックス。亀吉は悪乗りを乗り越し、「デマを流してモノ売ろう」などと嘯きつつ誇大広告を打つことも厭いません。このあたりの描写を含め、全体的にコミカルなタッチで描かれていますので、立身出世譚ふうのギャグとしていっそ愉快地読むことができます。

やがて日中戦争、太平洋戦争が開戦し、出版活動への検閲・統制が強まります。しかし、もともとの芸術理論を投げ捨て、読まれること、売れることに憑りつかれた白鼻進にはもはや歯止めはききません。この戦争を好機と捉え、業界団体を立ち上げ、軍部と結託し、

国威発揚のプロパガンダに手を染めていきます。戯画化されていますが、描かれているような漫画家による戦争協力や、歴史的な事実に基づくものです。

こうした白鼻進の、自らの責任に無自覚な振る舞いには、現代に通じるところがある…というより、まったく他人事ではないことに気づかされます。話題になればいい、儲かればいい、その場しのぎでかまわない。いまの政治や経済、社会全体に満ち満ちている風潮そのものではないでしょうか。

物語の最後に白鼻進は、自らの作品が人びとを戦争へと駆り立てる道具のひとつとして戦争体制に組み込まれた結果、いったい何が引き起こされたのかという現実と直面することになります。あっけない幕切れですが、どうすることもできない無力感を、よく描いていると思いました。とりわけ現代の漫画家としての作者の強い思いを感じる作品です。(山本 圭介)



ひやくせつふとう

百折不撓

あの日から81年目の夏、戦争資料館から先の大戦を考える

「公費を投入してさらに充実した施設にする必要があるのではないのでしょうか」

過日、某産別の関東エリアの学習会にお声かけをいただき、講演後の意見交換でいただいた意見です。東京都江東区にある「東京大空襲・戦災資料センター」を見学して感じた率直な感想ということでした。

「東京大空襲・戦災資料センター」は、市民からの募金や維持会員の会費によって支えられる公益財団法人が設立・運営している国立民営の資料館です。戦災や空襲の惨状を伝える公立の資料館が都内にほとんど無いなかで貴重な施設といえますが、「なぜ日本は無謀な戦争に突入したのか」という根本的な問いには触れていません。世界史における空襲の歴史の紹介に沿って、その文脈のなかで東京大空襲や広島・長崎の原爆投下に触れています。

かつて東京都には「東京都平和祈念館」という都立施設をつくる計画がありました。しかし、石原慎太郎都政下の1999年、財政難を理由に計画は凍結されました。日本のアジア侵略や戦争責任も扱う計画だったため、知事をはじめ都議会の保守・右派系議員から「自虐的」「偏っている」といった批判が出て、

政治的対立が高まったことが計画凍結の実際の理由です。財政難は表向きの理由に過ぎません。

他に思い浮かぶ施設としては、九段下にある「昭和館」があります。国立の資料館ですが、戦中・戦後の国民生活の労苦を実物資料や写真、映像で伝える内容となっています。この展示も「先の大戦の評価」には触れておらず、まるで戦争が「天災」のように国民に襲いかかったような印象を受けます。

日本の公的な施設が先の大戦の全体像を示すことを避ける一方で、靖国神社の「遊就館」ははっきりとした歴史観を示しています。明治維新からはじまり、西南戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争（「支那事変」）、第二次世界大戦（「大東亜戦争」）と、時系列に沿った構成は圧倒的な規模と内容となっています。アメリカによる日本への石油禁輸が日本を戦争に追い込んだとする展示内容で、欧米列強の脅威から日本を守るためのやむを得ない判断であったという歴史観は、しばしば「靖国史観」と呼ばれます。

歴史とは常に現代からの過去の解釈です。正しかったか間違っていたかの二項対立だけで語るほど簡単なものではないのかもしれませんが、私たちは過去を変えることはできなくても未来を変えることはできます。二度と戦争を許さないことを誓い、たとえばはっきりとした答えが出ずとも、あの戦争が何だったのか問い続ける81年目の夏です。(染 裕之)